

2020年度理系チャレンジ講座（第4回）を実施しました

9月16日（水）に大分大学総括理事・副学長の津村弘先生（医学部医学科）を講師に迎え、「健康寿命を延ばすための重要な要素とは」というテーマで、理系チャレンジ講座の第4回を実施しました。遠隔配信した安心院、竹田、三重総合、別府翔青、臼杵、大分鶴崎、大分西、大分雄城台、来学受講した大分の9校126名が受講しました。



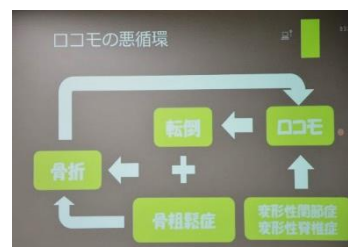
先生はまず導入として、「人生100年時代」といわれる現代において、日本では100歳以上の人口が8万人程度いることをお話しされたうえで、専門である整形外科の観点から健康寿命について講義をしてくださいました。



日本人の平均寿命は、女性が世界2位、男性が世界3位で、健康寿命（日常生活動作が自立している期間）は男女ともに世界1位です。しかし、平均寿命と健康寿命のどちらも年々伸びていますが、約20年間その差はほとんど変わっていません。

健康寿命を短くする原因を探るために介護保険を受ける人を見てみると、要支援の原因のうち1位が関節疾患、3位が骨折・転倒、要介護の原因のうち4位が骨折・転倒で、5位が関節疾患です。また、病気やけが等で自覚症状のある人の1000人当たりの割合である有訴者率で平成28年の男女上位5症状のうち、男性：1位腰痛、2位肩こり、5位関節痛、女性：1位肩こり、2位腰痛、3位関節痛でした。このことから、整形外科が対象とする疾患はとても重要であることが分かりました。

日本整形外科学会では、移動機能の低下した状態をロコモティブ・シンドロームと名付け、ロコモと呼んでいます。ロコモの予防は健康寿命を延ばすためにとても大切で、医療費の削減にもつながります。ロコモの原因疾患のうち、変形性膝関節症と骨粗しょう症についての詳しい説明と、大分大学福祉健康科学部の研究室で行っている変形性膝関節症の歩行解析についての説明がありました。



ギリシャ神話のなかに『スフィンクスの謎かけ』というものがあり、「朝は4本足、昼は2本足、晩は3本足で歩くものはなんだ？」という問いに、『私たち整形外科医は、「君の謎かけに対する答えは“人間”だが、今や人間は深夜まで2本足で歩いている」と答えたい』と述べて、講義をまとめられました。

授業後に実施したアンケートでは「総合的に判断して授業がよかった」（97%「そう思う」



と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ、「教員は真剣に取り組んでいた」（98%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（98%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（92%）、「映像はよく見えた」（92%）という結果が出ました。